

日常生活と鳥類との關係

和田 千藏

◇鳥類と人生との關係と云ふならば先づ農林水産業との利害關係を思ひ出すであらうが、この問題は他日にゆづり吾人が日常鳥のおかげで色々な利便をうけてゐることについて簡單にお話致しますが、内容は科學的態度を缺いてることを御斷りして置きます。

(一) 天氣豫察と鳥類

天氣豫察は測候所の仕事であるが、時に豫想外に當らないこともある。然るに鳥類は天氣に感應すること極めて鋭敏で、天氣變化の前徴として必ず或動作を現はすから、永年間注意してみると面白い程よく當るものである。ウミネコが汀に群れて騒いだり、岸にあがつて線的に列をつくつたりするのは暴風雨の前兆で、オシドリが木に止ると翌日雨になる。カラス・スズメの行水（水浴）する時、センダイムシクヒ（鶯に似て五月頃新緑の間でズズボデユウジュリ／＼鳴く）、キクイタダキ、ヲナガクワクコウ等が人里に現はれて鳴騒ぐ時等は大抵雨になる。又ハリヲアマツバメが人里に漂行して屋

上を高く掠め廻るのも雨の前兆である。トビ晝頃に出て舞ふと曇るか雨になり朝に舞ふと晴天となる。又天高く舞ふと風となり冬早朝より人家附近の梢上に群をなして止まる晴天になる。セグロセキレイ早朝より人家附近に推移して鳴く時、四十雀、小雀、日雀類の小群人里に現はれ喧囂するとその日は必ず四季を通して晴天となる。アカゲラ（方言ケラツツキ）が朝に人家附近に漂現するとその日は雨となり、コサメビタキが現はれる曇天となる。イカル（方言三光）よく鳴くと晴天になるので、この鳥の鳴聲を津輕地方では「今日もいゝば明日もいゝ」或は「精出してかせげ」を意譯し、農夫が天氣の中に早く仕事を進める様この鳥に勵まされてゐる。オホデシギ（方言十樂又はボドシゲ）が原野で、薄氣味の悪い怪音を立てて騒ぐと雨になる。朝にムクドリアスの群聲低ければその日は雨になる。冬季オホコノハヅク（方言オホ）人家又は建物内に入り來ると必ず大吹雪がある。ヨタカ夜間に快鳴すると翌日は晴天になる。海のカモ、ウの類が磯邊近く寄るか或は池川に移るのは暴風雨の前兆、カモメ類が陸地近く騒がしく舞立つのも暴風雨の前兆である。小湊の淺所に渡來するハクテフの群は漁師によく天候を教へてくれる。暴風雨の前には群が岸近くに寄り、愈々山背風の吹きすさむ時には既に一羽の影も残つてゐない。これは無難な大湊灣に避難したからである。やがて天候恢復に近づくとき再び群が現はれる。ツバメが空高く飛び交ふか又は地際を低く飛ぶと風雨に變る。フクロウが徹宵よく鳴くと晴天となる。農家では昔からこの鳴聲を聞き洗濯行事を進めてゐる。スズメ、ニハトリ等が雨中に出て餌を漁るその日は晴れないが、急に大雨が來た時ニハトリ、スズメの類が隠れてゐる間もなく晴れる。これを見て農夫が雨天の仕事を繰延す様になつてゐる。尙シギ、チドリ類が渡りの途中群團が夜間屋上を低く飛び、鳴聲を明かに聞く時は翌日必ず雨となる。深高山に居る時アラバト（ラ言マヲドリ）が五月蠅く彼方此方で鳴いたり、夕方鴛鴦類が天空に現はれると翌日雨となり、ヒバリの舞ひ上り低くカラス中空で騒ぐと暴風になる。以上は平凡な様であるが大體適中するので面白い。

(二) 鳥の民間薬

鳥を薬に用ひたのは太古からのことで、本草學の書物には幾分迷信から導來された醫治的効能がのつてある。古事記神代卷には鶏、雉、千鳥、鴨、鶺鴒、鵲鳥、鶯等が擧げられてある。醫學の進歩に伴ひ高貴の妙薬が出来てゐるのに拘らず、今日尙鳥を民間薬に賞用し相當効果をあげてゐる物もある。これから青森縣下各地を調べた鳥の民間薬を示して見ませう。

アヒル（白　色）の血液及び卵は中風の妙薬として近時盛んに賞用されてゐる。

イカル（方言三光）の肉は心臟病と肺活力増進に効く。

ウ　類（方言ウノドリ）の黒焼は黄疽に肉は婦人病の妙薬。

ウツラ　の卵は下痢止、肺病患者の強壯劑、肉は一般精氣を増し中風に効き、黒焼は去痰嗽、咽喉の痛み等に効く。

カイツブリ　の肉は痔疾に効あり。

カハガラス　の黒焼は下痢止、子宮病、腸チブス等に効くとして賞用されてゐる。

カハセミ（方言カジカトリ）の黒焼は中風、リウマチス或は痲病に賞用される。

カラス　の肉を寒中に喰べると耐寒性を増し、感冒を豫防し、眼病殊に結膜炎が癒る。腦の黒焼はツハブキ根の黒焼と混じ内服すると悪性の痔疾を根治す。

キジバト（方言ヤマバト）の黒焼は胃潰瘍、子宮病、脚氣、赤痢等に特効あり。肉は中風に肉の鹽漬は下痢止に効く。

キツツキ　類の嘴で痛んでゐる齧齒をく衝と忽ちに癒る。黒焼は婦人病に特効あり。

クロツグミ（方言コツケイ）の肉は肺病に効く。

クワクコウの肉は子宮病、腎臓病、脚氣、赤痢、喘息等に特効がある。

スズメの肉は寒中に喰べると兒童の強壯劑となる。（但し頭部を喰べること）。

タカの膽囊を乾かし腹痛の時又中毒の時に用ひ効を奏してゐる。

タシギ及び外のシギ、チドリ類の脂肪は耳漏を癒し齲齒の痛みを止める。又タムシにも効くといはれてゐる。

ツルの骨片を磨碎して粉にしてのむと衄血を止める効がある。

ツバメの肉を薄味噌汁にして食すると悪性の腸チブスでも癒る。卵殻を粉にして内服すると小兒の疳を治す。糞

を乾燥し頭痛の際、これを粉にして水に溶かし足の裏に塗れば鎮痛すること勿論、これを常用すれば腦病を治するに有効である。尙糞を飯粒と共に捏ねてこれを紙に塗り、痛んでゐる齲齒の外部に貼るに不思議に癒る。

トビの肉は中風、腦病、癩癧^{デジカン}、婦人病の妙藥、黒燒は中風、リウマチス、咳嗽等に効くといはれてゐる。

トバトの肉は脚氣と子宮病に効く。

ニハトリの肉は雄鶏の鶏冠は寢小便鮮血は肺病患者の強壯劑となる。卵白は眉毛の薄い人が塗抹するとよく伸びる。

又卵白で男女の髪洗うとよく垢が落ち美髪となる。

ハクテフの肉は去痰に効き綿羽は血止になるので賞用されてゐる。

ヒバリの黒燒は心臟病、腦病、腸チブス、赤痢、子宮病等に有効である。

ホトトギスの肉は下痢止め、黒燒は子宮病に特効ありといはれてゐる。

マガモ（ア、ヲ、ク、ビ）の舌を乾燥し煎用するに解熱に特効ありといはれてゐる。

マガンの脂肪を運用すると悪性梅毒が癒るといはれてゐる。

ミソサザイの黒焼を内服すると脳病が癒ると言ひ傳へられてゐる。

以上は本縣で行うてゐる鳥の藥治應用であるが、在來本縣固有の應用であるか他の地方から傳來した方法であるかは判然としない。書物を見ると本縣でやつてゐる方法が他の地方でもやつてゐるからである。右の應用は迷信的なものが多いにしても、用ひて効能のあるものが相當あるから全く見捨つべきものではない。

茲に於て實際應用するとなるに材料を得るに一苦勞をする。鳥には年中通して本縣に居るものと春秋二季に渡來して半年位居るものもあり、又狩獵法の下にたゞひ當地にゐるものでも捕獲が出来ないものもある。又折角捕つたものでも名前が判らないために應用が出来ぬといふこともあつて、一般には獵師が捕へる獵鳥を利用する位になつてゐるらしい。中風を癒す目的でトビを打つたら大變なことになる、子宮病を癒すためにホトトギスを捕つても矢張り前同様罰金に處せられ、醫者に行くよりも高くなるから徒らに利用せんとすることは慎まなければならぬ。又鳥には喰べて死ぬ様な毒鳥といふべきものはないが、野原で死因不明の屍があつても、後が危険であるから藥治にも食事にも應用することは遠慮すべきである。

(三) 文 藝 と 鳥

鳥の奇習奇觀は文學或は傳説、神話等に至る迄様々に應用されてゐる。鳥に關する西洋文學は非常に豊富でよく資料となるものはクワクコウ、ハト、ワシ、タカ、ヒバリ、ツグミ、ナイチンゲール（夜啼鶯）、フクロウ、コマドリ、ミヤマ

ガラス、カモメ、ハゲワシ、ミソサザイ、コクテウ（黒鳥）、アヲサギ、カハセミ、トビ、シヤコ、七面鳥、ハクテウ、スズメ、四十雀、多くの渡鳥等約八十種以上に達してゐる。次に東洋文學上の資料となつてゐる鳥も少なくない。鶯の小歌、時鳥の聲、雁のあゝ、飛ぶ燕、揚雲雀、千鳥、都鳥等實に深い關係が結ばれてゐる。

鳥類は繪画、彫刻、圖案の資料として重要視されてゐる。繪画に於ける花鳥、圖案上の色彩、形狀、模様の便化資料等はこれで、繪画では多少困難が伴うが大抵自然狀態を現はすことに努力して丹精を凝らしたものである。日本画には鳥の資料が多く花鳥の繪には頗る精美の色彩を添へてゐる。元來繪画には靜中動の三點を求むることは必要なもので、草木は靜で鳥は動である。山あるこ必ず水があり花あると必ず鳥があるといふ風に、靜の中動を描き兩々相調和のこりつゝあるものである。加之鳥の色彩は草木三種を調和を添へるものであるから、靜中動の意味ではなく色彩の配合を助けることが大である、實際花を畫く時鳥も畫くべく鳥を除いては眞の花鳥の画ではないといはれる。ヤマドリ、ブンテウの優美な姿、カハセミの濃艶な形等は一種天然の美を帶びたもので、繪画にされるこよく丹精の美を發揮させると共に、その繪をして活かさせる好資料となるものである。

花鳥の配合は日本に於ては略々定まつてゐるもので、梅に鶯、柳に燕、葦に雁、松に鶴、竹に雀等といふ風にそれゝ季節的に結付けられてゐる。尙花鳥に關聯した狩獵の繪画も一種の趣味を喚起するもので、我國では室町時代に全盛を極めて畫いたけれども、佛教傳來と共に多少衰へた傾向を示し今では餘り見られない様になつてゐる。

次に鳥と圖案との關係を見るに、諸種の鳥類が自由構想の下に所謂便化されてゐるのが普通である。圖案の材料に用ひられてゐる鳥の種類は随分ありますが、村山誠一郎著教育圖案集誌には次の様なものがあげられてゐる。

表象資料

目出度を表はすには
富貴を表はすには
立身出世を表はすには
平和を表はすには
愁を表はすには
愛を表はすには
夫の愛
武勇を表はすには
信義を表はすには
不幸、不吉を表はすには

ツツル
ハト
時鳥
オシロ
キジ
ワシ
雁
フクロウ

關係資料

桐に鳳凰
柳に燕
竹に雀
梅に鶯
南天に鶻

松に鶴
蘆に雁
柿に烏
梅に鶯
浪に鳥

優美資料

鶯、千鳥

剛壯的資料

家雞、雉子

壯美資料

燕

艷美的資料

孔雀

近時は玩具に迄鳥の形を便化し様々な面白いものが作られる様になつた。

(四) 吉凶判断及び夢占と鳥類

世の中の盤根錯節せる人事百般吉凶禍福は科學の力でも豫知することが困難なのに、迷信的ではあるが鳥類の行動によつて大體でもこれを知ることが出来る。故に信仰の強い人は鳥を吉凶判断や占夢に應用してゐる。吉凶判断に應用された鳥の種類が澤山あるが、當地で最も普通にいはれてゐるものを述べて見ると、雌雞トナリが刻を告ぐると一家の主婦が家を亂すか、火災その他の天災に襲はれるといふので、當地では附近の人迄警戒するのが習慣になつてゐる。カラスの交尾を見ると家族或は親戚の者に必ず患ひもしくは死者が出る。ハトの巢を造つてゐるのを見ると家族のものに病人が出る。ツバメの雛が巢から落ちて死ぬか、例年渡つて來て巢をつくるのにその家に渡來しないか又は渡來したものが移轉すると、その年に必ず死人があるか火災が起る。これは不思議に當るもので青森大火の年には私の家にも渡來しなかつたので、不思議に思つてゐる内に類焼しました。田舎で雞が屋上にあがつて鳴くとその向つた方面に火事がある。夜鶏が鳴くとその家の釜が割れるといひ十分焚火に注意をする(市街地では餘り關心がない)。それと同じく夜鴉、夜雉子が啼く場合にも火事があると注意をする。カラスの啼聲が色々な判断に應用される。屋上で如何にも薄氣味が悪い様に沈聲で緩かに鳴けば、附近に必ず死人が出るか怪我でもして死ぬ人がある。又旅行中後を追うて來て不快に啼かれると家内に死人があるか親友に不幸がある。又朗らかに家又は勤務先の室の附近で鳴くと必ず來客がある。これはよく當る。私の博物館教室の附近でこの啼聲が聞えるときいつでも遠方からの訪問者があるので感心してゐる。又家に於て鳥影のうつるのを見ると必ずその日に來客があるのも面白い。ハトが澤山集つて來るゝその家が繁昌し、澤山居たハトが移轉すると貧乏になる。航海中船上にカモ

メが止ると海が荒れて来る。又船の周圍に海鳥が旋回すると難破の恐があるが、渡鳥が止まつて捕はれると船員一同に幸がある。以上試してみると適中するものが少くない。

夢判斷に鳥を應用したことは太古からであるが、夢そのものが惡かつたこと迄屹度凶事が出來るとも限つてない、けれどもこれを慎まずに仕事をする、不思議に不吉が身邊に迫る様に見受けられる。多くの場合夢と人事の吉凶とが一致することがあるから、注意して處世すべきであると信ずる。古い書物だが寛政七年（皇紀二四五五年）に上梓された占夢早考といふその中から、鳥と夢の部分の抜書して見ると次の事がある。

鸚鵡が吾と物言ふことを見るに目上の人に病難死亡がある。身に羽翼を生ずると見れば吉で金銀の利得がある。又羽翼を生じて天に昇るに見れば早まつて悔ゆることがある。サギを見れば吉で人にはめられることがある。スズメの集るのを見れば財寶が得られる、スズメが家の内に飛入るを見れば喜びごとがあり、スズメ喰ふと見るに公事訴訟事があるべく、スズメが懷中に入るに見れば女兒をまうくべし。タカを見るは大吉で千人の長となる。深く慎まなければ人と怨を結ぶことがある。鷹をうつと見れば吉で金銀を儲ける。ツルが空に舞ふのを見ると大吉で立身出世する。ツルが馴れて庭にあると見れば子を産み、放つと見れば商利ある。ツルに乗ると見れば官位ある人は吉、平人は利をこりそこなうことがある。雞が晨を告ぐると見れば大吉で願事が叶ひ、屋根の上に登ると見れば凶で口舌がある。鳩の夢は平生忠孝篤實の人が見ると大吉で主親長壽、婦人がこれを夢みるに操正し貴い子を生む、奸佞の人がこれを見るとやがてその巧みが現はれる。ワシを見ると物の頭長となり、ワシに掴まると見れば望が失はれる。ヲシドリを見るのは吉であるが、ヲシドリの飛びあるのを見ると夫婦離別することがある。

次に一項つけ加へて置き度いことは溺死者の屍を發見するに雞を使用することで、これは決して迷信でもないよく在場

所を示してくれることが多い。川や沼等で溺死した屍を探すには小舟又は筏に雞をのせて漕ぎ回ると、屍の附近に行くと雞が鳴くから附近を探すと屍が発見される。この實驗は諸地方に行はれ好評を博されて居る。昨年十和田湖上の遭難者の屍を探るにも科學的搜索のみではとても目的を達し得ずこの方法をも行うたこ聞いてゐる。私の話はこれで終わりますが鳥の行動に注意すると、日常生活上に起る事象中科學で解決し得ない事迄も大體知ることが出来ると思ひます。

(二四〇・四・二五)

